

JOYO BANK NEWS LETTER

2025年11月21日

産学金連携による地域発の脱炭素技術の社会実装を支援 ～茨城大学が発足する「MSA-DAC 研究会」に特別会員として参画～

常陽銀行（頭取 秋野 哲也）は、めぶきフィナンシャルグループの第4次グループ中期経営計画に掲げるマテリアリティ「脱炭素社会・環境保全への貢献」に基づき、取引先企業のCO2排出量削減支援など、地域における脱炭素の取り組みを推進しています。

こうした取り組みの一環として、国立大学法人茨城大学（学長 太田 寛行）のカーボンリサイクルエネルギー研究センター（CRERC、センター長 田中 光太郎）が、本日11月21日に発足する「MSA-DAC 研究会」に特別会員として参画し、当研究会の活動を支援してまいりますので、下記のとおりお知らせいたします。

当行は、研究会への参加を通じて、茨城大学との産学金連携を一層推進し、地域社会の持続的な発展と脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

記

1. 「MSA-DAC 研究会」の概要

カーボンニュートラルの達成には、CO2排出量の削減努力に加え、大気中のCO2を回収・除去する「ネガティブエミッション技術」が不可欠とされています。その有力な技術であるDAC（Direct Air Capture）は、大気中から直接CO2を回収できる技術です。一方、回収に必要なエネルギー・コストの低減が社会実装への課題とされてきました。

茨城大学カーボンリサイクルエネルギー研究センターは、この課題に対し、低エネルギー・低コストでのCO2回収を目指す独自の「湿度スイング法（MSA）」の研究を推進しています。

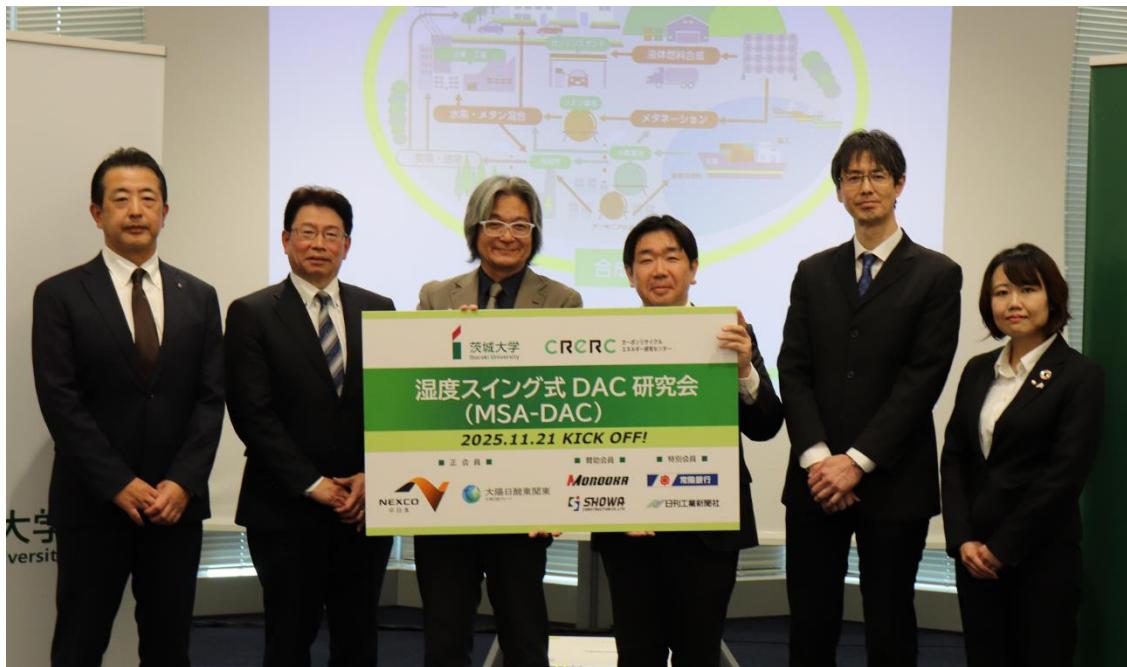
本研究会は、この先進的な「MSA-DAC」技術の社会実装に向け、企業との知見共有や研究開発指針の獲得を目的として発足するものです。

2. 当行の支援内容

当行は、研究会が目指す「MSA-DAC」技術の社会実装と普及に向け、地域金融機関としてのネットワークや知見を活かし以下の支援を行います。

- ・研究会運営のサポート
- ・研究会の活動や研究成果に関する普及啓蒙・広報活動の支援
- ・研究会が主催する各種イベント・セミナーにおける集客支援
- ・当行の取引先ネットワークを活用した地域での脱炭素に関する取り組みの振興

【11月21日開催のプレスセミナーの様子】



(左から)

株式会社常陽銀行 取締役専務執行役員 小松崎 光一

大陽日酸東関東株式会社 取締役社長 村山 貢一

茨城大学 副学長 研究・産学官連携機構長 応用理工学野教授 倉本 繁

茨城大学 カーボンリサイクルエネルギー研究センター長 応用理工学野教授 田中 光太郎

中日本高速道路株式会社 課長 藤野 友裕

昭和建設株式会社 企画室 関 香織

以上